

登録簿(鳥獣保護管理捕獲コーディネーター)

登録番号		C12003
(ふりがな) 氏 名		はやかわ いつお 早川 五男
連絡先	名 称	特定非営利活動法人 若葉
	役 職	副理事長
専門分野		鳥獣保護管理捕獲コーディネーター
専門とする鳥獣		<input checked="" type="checkbox"/> イノシシ <input checked="" type="checkbox"/> ニホンジカ <input type="checkbox"/> ツキノワグマ <input type="checkbox"/> ヒグマ <input type="checkbox"/> サル <input type="checkbox"/> カモシカ <input type="checkbox"/> カワウ <input checked="" type="checkbox"/> 外来種 (キョン) <input type="checkbox"/> その他 ()
主な活動地域		<input checked="" type="checkbox"/> 北海道 <input checked="" type="checkbox"/> 東北 <input checked="" type="checkbox"/> 関東 <input checked="" type="checkbox"/> 北陸 <input checked="" type="checkbox"/> 中部 <input checked="" type="checkbox"/> 近畿 <input checked="" type="checkbox"/> 中国 <input checked="" type="checkbox"/> 四国 <input checked="" type="checkbox"/> 九州 <input checked="" type="checkbox"/> 沖縄
鳥獣保護管理活動の経歴		狩猟歴47年。大物を主としたグループ猟のリーダーとなり長年、猟友会員として有害鳥獣駆除活動に従事。 H16年 有害鳥獣捕獲を目的とする、中部ビックハンティングクラブを設立。 H20年 自然環境保護団体 特定非営利活動法人若葉を設立、同年より伊豆市捕獲隊の班長として、翌年静岡県への委託により足括り罠の指導者として従事。また同年より毎年静岡県一斉管理捕獲事業に従事。 H23年～25年、富士山における誘引狙撃法実験事業に携わり、H26～H29年、公共事業での富士山地区有害鳥獣捕獲事業に従事する。 その他、神奈川、鹿児島、長野、大島などで活動中。

○登録者の住所、電話番号、FAX番号、E-mailに関わる情報については、利用者が利用申請書を運営事務局へ提出した場合に、当該利用者に限り情報の提供をします。

本活動レポートは平成 25 年度に作成したものであり、
登録者の所属及び内容は作成時のものです。

人材登録事業の活用事例

【鳥獣保護管理捕獲コーディネーター】

■人材登録事業利用者

神奈川県自然環境保全センター

■登録者（鳥獣保護管理捕獲コーディネーター）

早川 五男（特定非営利活動法人 若葉）

■登録者への依頼事項（概要）

当県発注事業「平成 25 年度ニホンジカ捕獲困難地小規模捕獲委託事業」の受託（捕獲の実施及び技術指導）

（利用者からの報告）

■利用申請に至った背景

シカが高密度で生息しているにも関わらず、急峻な地形等の条件から、効果的に捕獲圧をかけることが出来ない地域があり、丹沢山地のシカ管理を進めていく上での最大の課題の一つとなっていた。そのため、当該地域での捕獲推進へ向けて、捕獲の専門家による技術指導を必要としていた。

■登録者との事前調整

仕様書及び実施要領にて依頼内容を確認。また、当該捕獲地において発注者（当県）が抱えている課題、適正な捕獲の手法、従事する捕獲者の技量、条件、実施体制、安全管理等について詳細な確認を行った。

■本事業の活用による成果（利用者の感想）

アプローチが遠く、地形が極めて急峻で、山が奥深いため捕獲困難地となっている地域において、本登録者と県指定のワイルドライフレンジャーによるシカの管理捕獲を実施し、2日間で9頭のシカを捕獲することができた。

条件の極めて厳しい地域で管理捕獲を行うにあたり、これまでの実施状況をもとに、専門的見地から貴重な助言をいただいたうえで、豊富な経験と高い技術により丁寧に下見を行い、綿密な捕獲計画を立てた上で捕獲を実施していただいた。捕獲実績の面でも、今後の取組に向けた示唆という面でも、大きな成果が得られた。山岳地での捕獲活動における安全性や効率性の確保という面でも、大変貴重な事例を得ることが出来た。



（登録者からの報告）

■依頼を受けて実施した内容

丹沢山岳地のおよそ 1,000m地点におけるシカの捕獲の実施と技術指導。危険個所を確認の上、降雪等の山の状況、シカの足跡の確認から現時点での生息状況や動向を確認し、捕獲場所を設定した。1 名が尾根伝いに上りながらシカに重圧をかけ、その後方に待機した2 名が捕獲する「追い猟」を実施した。

■報告等

奥深い山岳地帯での捕獲であるため、何よりも安全の確保が重要であった。捕獲においては、その場所（山）を知り、読むことが必要不可欠だが、不慣れな場所での判断であり、長年の経験を元に特に慎重を期したことで、安全な捕獲作業が可能となった。

また、捕獲個体との距離が 150～300mに及び中での駆け引きとなるため、高度な射撃技術が必要であることを再確認した。



捕獲現場（急峻な地形で一般狩猟者も立ち入らない）

